

# 全国 民俗芸能大会

2010. **8.21** [土]  
13:30開場 14:00開演  
日本青年館大ホール



第7回  
伝統文化  
研修セミナー  
2010

8月21日[土]/22日[日]

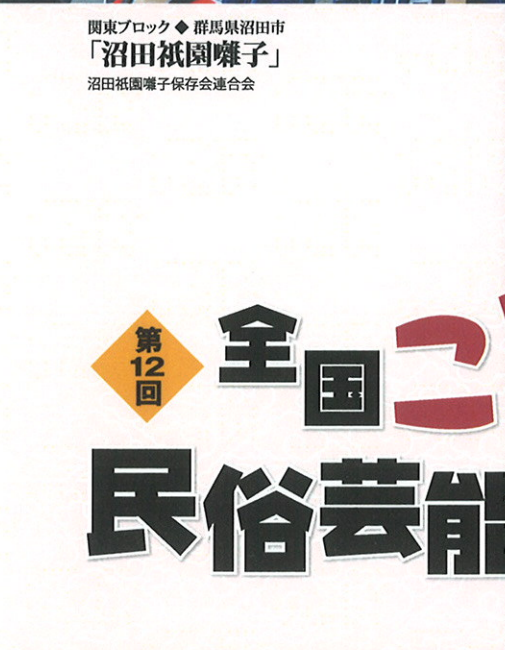
主催 社団法人 全日本郷土芸能協会

後援 文部科学省、インド大使館、秋田県教育委員会、群馬県教育委員会、新潟県教育委員会、長野県教育委員会、三重県教育委員会、岡山県教育委員会、宮崎県教育委員会、全国民俗芸能保存振興市町村連盟、(財)伝統文化活性化国民協会、(財)日本青年館、日本青年団協議会、(株)教育新聞社

助成 日本財団  
\* ポートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施します。



関東ブロック ◆ 長野県飯田市  
「南信州の屋台獅子」  
南中平獅子舞保存会



関東ブロック ◆ 群馬県沼田市  
「沼田祇園囃子」  
沼田祇園囃子保存会連合会



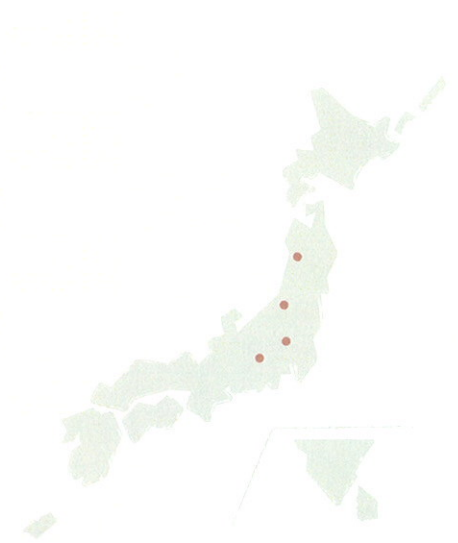
# 第12回 全国こども民俗芸能大会



北海道・東北ブロック ◆ 秋田県秋田市  
「荒巻番楽」 荒巻番楽保存会



関東ブロック ◆ 新潟県見附市  
「小栗山の獅子舞」  
小栗山不動院獅子舞保存会



社団法人 全日本郷土芸能協会  
理事長 菴谷 利夫

今年も暑い夏とともに12回目を迎える「全国こども民俗芸能大会」を開催できますことは、当協会にとって大いなる喜びです。この大会は、我が国の大切な文化財である民俗芸能の保存振興と後継者育成の一助となることを目的として開催してまいりました。今回を含めてこれまでに、35都道府県の78団体に出演いただきました。出演した子どもたちや指導者の皆さんからの感想には、出演に際し練習に意欲的に取り組み、また出演後にもそれぞれ他の民俗芸能に接したこともあり、自分達の文化に対し関心が高まっているなどの報告も寄せられています。

また、一方では近年の過疎化による地域社会の変化により、これまで長い間先人より伝えられてきた民俗芸能やお祭りが出来なくなっている地域が数多くあるのもまた事実です。民俗芸能を後世に繋げていくことは容易い事ではありませんが、そう望まずにはいられません。私たちは地域文化としての民俗芸能の持つ力を強く感じております。子どもたちが民俗芸能に触れ、仲間たちや大人との世代間交流の中で生きていくうえでとても大切なことが育まれていきます。今年の伝統文化研修セミナーは「生きる力をはぐくむ伝統文化」をテーマに開催されます。このセミナーは、第6回大会より本大会と併催する形で、学校や地域で民俗芸能に取り組む子どもたちの事例発表を通して、学校教育と地域社会における民俗芸能の伝承活動とのかかわり方などを探るセミナーです。

今年も各都道府県教育委員会から多く参加希望団体の推薦を頂きました。選考委員会を経て選ばれた8団体は、どの芸能もそれぞれの郷土で育まれた特色あるものです。子どもたちは郷土の誇りを胸に大いに日頃の成果を発揮してくれるものと確信しております。

最後になりましたが、文部科学省をはじめ後援を頂きました各関係団体の皆様、助成を頂きました日本財団、そして日々練習を重ねてきた子どもたちご家族、保存団体関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

## ごあいさつ

出演団体選考委員会  
委員長 宇野 小四郎



全国で郷土の芸能を伝承している子どもたちが主役となる舞台は第12回を迎えました。平成11年(1999) 第1回に9才で参加した子どもがいたら、今年成人式を迎えている筈です。この大会の舞台を踏んだ子どもたちが続々と地域の伝統芸能の担い手の中核になることを期待しております。

前回迄この大会に出演した子どもたちは、異口同音に「今迄一生懸命練習してきた。今日は頑張ります」と元気良く言い、上演の後では「今日は自分でもよく出来たと思います。楽しかったです」という感想を述べていました。本年は47都道府県より58団体の推薦を頂き、北海道・東北ブロックより秋田県秋田市の荒巻番楽保存会の「荒巻番楽」、関東ブロックより群馬県沼田市、沼田祇園囃子保存会連合会の「沼田祇園囃子」、新潟県見附市、小栗山不動院獅子舞保存会の「小栗山の獅子舞」、長野県飯田市、南中平獅子舞保存会の「南信州の屋台獅子」、近畿・東海・北陸ブロックより三重県松阪市、射和祇園祭囃子保存会の「射和祇園祭囃子」、中国・四国ブロックより岡山県高梁市、成羽備中神楽育成会の「備中神楽」、九州・沖縄ブロックより宮崎県宮崎市の「青島白太鼓踊り保存会」の「青島白太鼓踊り」、それに海外の団体としてインド・ケーララ州、ナタナカイシキ舞踊研究所による「南インドの伝統舞踊～モヒニヤットム」が参加して合計8団体が出演します。

毎年この大会を楽しみにして下さる方が増えてまいりました。本日の御来場も誠に有難く存じます。皆様の御声援は子どもたちを、一層元気にし、郷土の伝統芸能の伝承に自信を与えております。また、御案内のように第7回伝統文化研修セミナー2010が開催されます。今年のテーマは「生きる力をはぐくむ伝統文化」です。子どもたちは昔から祭や年中行事、芸能等の地域の文化の中で役割を果たしてきましたが、地域の形が大きく変わっている今は、地域社会の中で自然に身に付ける基盤が薄くなりつつあります。生きる力をはぐくむ全国4ヶ所の地域の特徴的事例の発表と、この問題に取り組んできた方々の白熱した論議は毎回成果をあげております。皆様の御参加をお待ちしています。

最後になりましたが、御後援、御助成をいただきました関係団体、御力添えを頂いた多くの皆様にご心より御礼申し上げます。

# 第12回 全国こども民俗芸能大会

## ❀ プログラム ❀

オープニング

- 第一景 **沼田祇園囃子**  
ぬまた ぎ おん ばやし  
「さんてこ」「テケテットン」「籠回し」「麒麟」
- 第二景 **荒巻番楽**  
あら まき ばん がく  
「獅子舞」「露払い」「屋島合戦の舞」
- 第三景 **小栗山の獅子舞****こ ぐり やま**  
「獅子舞『庭入り』」「神楽舞『地ころび』」
- 第四景 **南信州の屋台獅子****みなみしん しゅう**  
「道中舞」「本舞」
- 休憩
- 第五景 **射和祇園祭囃子****いざわ ぎ おんまつり ばやし**  
「宮囃子」「道中囃子」「大屋台夜囃子」「十日えびす」  
「シャンシャンギリリスス」「チョンキナ」
- 第六景 **南インド・ケーララ州の伝統舞踊～モヒニヤッタム****でん どう ぶ よう**  
「ポリ」～母なる女神「クラティ」への祈りの踊り～
- 第七景 **青島白太鼓踊り****あおしまうすだい こ おど**  
「道行き」「宮太鼓」「御所之松」「中息れ」「神家白」「是善鼓」
- 第八景 **備中神楽****びっちゅう かぐら**  
「大蛇退治」

フィナーレ

司会 齋藤みどり

### 出演団体選考委員会

委員長	宇野小四郎	(財)現代人形劇センター顧問
委員	掛谷 昇治	(財)日本青年館公益事業部次長
委員	城井 智子	(社)全日本郷土芸能協会専務理事
委員	小島 美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	中嶋 春洋	元国際交流基金常務理事
委員	芳賀日出男	民俗芸能写真家
委員	星野 紘	東京文化財研究所名誉研究員

## 第7回 伝統文化 研修セミナー 2010

生きる力をはぐくむ  
伝統文化

1日目 8月21日[土]

日本青年館・大ホール

11:00 「第12回全国こども民俗芸能大会」舞台稽古見学と解説  
解説 星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)

14:00 「第12回全国こども民俗芸能大会」公演鑑賞



2日目 8月22日[日]

日本青年館・中ホール

13:00 開会  
主催者挨拶 理事長 菴谷利夫

◆ 基調講演  
「折口信夫にみる～子どもの祭りと古代の心」  
講師 芳賀日出男(写真家)

- ◆ 事例発表① 「晴山獅子舞」 青森県十和田市  
晴山獅子舞保存会 会長 佐々木秀美
- 事例発表② 「下町子供手踊り」 福島県南相馬市  
下町子供手踊り保存会 会長 濱名 智
- 事例発表③ 「川名のひよんどり」 静岡県浜松市  
川名ひよんどり保存会 会長 前嶋 功
- 事例発表④ 「御殿万歳」 愛知県東海市  
東海市万歳保存会 会長 早川太美夫



◆ パネルディスカッション  
「民俗芸能で広がる子どもの世界 ～生きる力をはぐくむ伝統文化」

- ◇ コーディネーター  
小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- ◇ パネラー(予定)  
入江宣子(世田谷区生涯大学専任講師)  
田村 学(国立教育政策研究所教育課程調査官)  
星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)  
宮田繁幸(東京文化財研究所無形文化遺産部部長)



# 第12回 全国こども民俗芸能大会

## 出演団体紹介

- 秋田県秋田市 「荒巻番楽」
- 新潟県見附市 「小栗山の獅子舞」
- 群馬県沼田市 「沼田祇園囃子」
- 長野県飯田市 「南信州の屋台獅子」
- 岡山県高梁市 「備中神楽」
- 三重県松阪市 「射和祇園祭囃子」
- 宮崎県宮崎市 「青島白太鼓踊り」
- インド 「南インドの伝統舞踊～モヒニヤットム」

### 関東ブロック ◆ 群馬県沼田市

## 「沼田祇園囃子」 沼田祇園囃子保存会連合会

毎年8月3日～5日に行われる須賀、榛名両神社のお祭り「祇園祭」を古くから土地の人々は崇敬と親愛の情をこめ「おぎょん」と呼んでいる。沼田祇園祭は、天正18年(1590)に市の神様として牛頭天王が祀られて以来その歴史は400年にのぼる。祭りの主役を務める「山車」および「お囃子」の伝来は定かではないが、江戸時代の後期に伝わってきたと考えられている。沼田に伝承されたお囃子は、上州系統の「さんてこ囃子」で、このお囃子は締太鼓の音を高く調律し、叩くときの強弱をはっきりさせる奏法で、能管に似た長尺太鼓が中核に位置し、テンボがゆっくりに気品を醸した荘重典雅な趣があり、祭囃子を抜きにしても、音楽として鑑賞に充分堪えうるお囃子と評されている。最大の特徴である優雅な響きは沼田の派手な花柳界と、粋な感性に磨かれた沼田の多彩な文化の影響が大きく加味され、「沼田祇園囃子」として確立し、洗練、定着したものと云われている。



村沢乃悟 須田吉信 太田笑菜 茂木知奈美 片山雅子 吉野里彩 割田佑梨亜 小池葵 須田歩実 木村鈴音 小林瑞果 小林美緒奈 小茂田花梨 金井恵奈 富澤優夏 茂野沙耶 須田清七 岡部忠治 矢島照久 鈴木治善 加藤水絵 保坂よし子 稲川悟 林正作 石田齊 花山敏男 高野新二 海老原秀夫



### 北海道・東北ブロック ◆ 秋田県秋田市

## 「荒巻番楽」 荒巻番楽保存会

「荒巻番楽」の起源は、元禄年間(1688～1704)に悪疫退散にご利益があるとされた獅子頭がこの地方に贈られ、この獅子頭の霊験を世に広めることを願い、舞師に依頼して振り付けをしたのが起源とされている。その後、明治20年頃にかけて附近集落を巡回するなど盛んに行われていたが、いく度かの衰退の時期を経て、昭和40年代後半に地元青年会が再度復活を果たし、同会が中心となって継承してきた。平成13年からは後継者の育成も考慮し、青年会のほか小学生以上の子どもたちに演じてもらうなど現在に至っている。演目は、古くは十二番の舞があったとされているが、現在では「獅子舞」「露払い」「屋島合戦の舞」の三番を継承している。舞は、「五穀豊穡」「家内安全」「無病息災」を祈願して演じており、毎年、秋田市民俗芸能伝承館で行われる「秋田市民俗芸能発表会」や、上北手小学校の行事「二見祭り」などで活動している。

後藤凌太 浅利裕也 後藤峻光 熊谷海斗 小泉隼人 浅利繁雄 藤井設男 後藤久樹 佐々木博秋

### 関東ブロック ◆ 新潟県見附市

## 「小栗山の獅子舞」

小栗山不動院獅子舞保存会  
見附市立新潟小学校



見附市小栗山の真言宗の古刹、不動院に伝えられてきた「小栗山の獅子舞」は、二系統の獅子舞が舞台の上で競演するところに特色がある。その一つは一人立ち三匹獅子と称される猪系の獅子頭を用いた獅子舞。もう一つは二人立ちの獅子で熊野権現の化身と言われるライオン系の獅子頭を用いた神楽獅子である。約300年間に亘って地元小栗山町の人々の手でこの獅子舞は受け継がれてきた。新潟小学校では、地域を大切に思う豊かな心を育成したいと願い、平成8年から小栗山の獅子舞保存会の協力を得て、5・6年生全員で獅子舞活動に取り組んできた。先輩から後輩へと教え伝えられ今年で15年目である。これまで「総合的な学習の時間」に獅子舞の歴史や起源、伝承経路などを調べ、「獅子舞物語」を発刊した。演目は、それぞれの獅子が四番ずつ伝承しており、今回は一人立ち獅子舞は「庭入り」を、二人立ちの神楽舞(神楽獅子)は「地ころび」を披露する。

小黑宏志 島津一誠 田邊虹輝 坂上優依 鈴木珠美菜 平賀彩夏 長谷川真葉 山岸慎平 福原健矢 名古屋竜司 パンゴゼム・ケレック高 青木紫苑 平賀智也 五十嵐彩音 石田真衣 小林綾香 関崎蓮乃 高橋萌香 長沼美有 西郁香 原山愛望 星野遥 山村繪 今井仁美 宇之津瑠花 江田幸穂 大花沙衣 本間楓 久保竜之助 佐藤健人 星田舜哉 石田晴香 大谷浩樹 高橋秀 高橋雄大 馬場優翔 横坂涼太 大橋大治朗 金子優斗 高橋利彰 高林亜美 星野陸 明歩谷和樹 山本絃也 島田敏夫 田代勝巳 石川美佐代 武井詩子 結城孝子 佐藤康幸 鈴木正明 石田庄作 鈴木武史 鈴木伸介 高橋賢一

### 関東ブロック ◆ 長野県飯田市

## 「南信州の屋台獅子」 県中平獅子舞保存会

南信州の伊那谷には、70基から80基ともいわれる数多くの「屋台獅子」が古くから保存、伝承されている。「屋台獅子」とは、獅子頭の後ろに付けた幌幕に囃子屋台をくっ付け、お囃子と獅子舞を一体のものとし、練り歩く獅子舞をいう。幅3m、長さ20m、高さ3mにも及ぶ大きな獅子で全国的にも大変珍しい形の獅子舞である。獅子は動く神座として神を宿し、五穀豊穡、家内安全を祈願して毎年氏神様の春季祭典に奉納される。県中平獅子舞保存会では後継者の育成と子どもたちの地域活動への参加を願い、平成3年に子どもたちによる獅子舞を始めた。福を呼ぶと言われる「おかめ」は女の子が、勇壮な舞とお囃子は男の子が担当。「伝統文化こども教室」の事業として小学校1年生から中学校3年生まで多くの子どもたちが集まり、親獅子の師匠から指導を受けながら定期的な練習を行っている。



北原希美 土屋結菜 伊藤莉央奈 小原七海 平沢百花 伊藤玲奈 熊谷湊 熊谷里佳 栗原佑果 竹村葵 牧内祐美 小原由希 小林杏里 藤田愛緑乃 木下澄恵 森本溪悟 小林耕太郎 牧内湧輝 小林幸弘 栗原佑貴 加藤俊治 櫻井悠翔 井原綜太 井原啓太 牧内湧潮 戸崎精 橋爪健太 長沼匠 熊谷穂 北原真里子 小原真美 栗原八重子 小林弘典 金沢好美 熊谷茂治 川口充央 真野広司 北原進 大沢清 戸崎敬 中村英義

### 近畿・東海・北陸ブロック ◆ 三重県松阪市

## 「射和祇園祭囃子」 射和祇園祭囃子保存会



「射和祇園祭」の文献上の最古の記載は1683年で、射和出身の俳人大淀三千風が祭の様子を詠っており、この歌が法被の背に染めこまれている。射和は水銀を原料とする「伊勢白粉」の産地として栄え、多くの豪商を輩出し、富を得た。祭の今の形態はその富を基に京都の祇園祭をまねて江戸中期に出来たと考えられている。白粉は水銀を原料とすることから多くの水銀中毒の犠牲者を出したのも事実で、祭により中毒の退散とその方々への鎮魂を同時に願った。水銀を運ぶ時に使った鉄製の容器を「水銀」と呼び、楽器として使用していることはその表れとされている。祭囃子は大小の屋台の2階で、昔から子どもが演奏してきたことが特徴であり、今は小中学生が行っている。曲目は、神社に神輿を迎えに行くときの「宮囃子」、小屋台が移動するときの「道中囃子」、大屋台が御旅所へ向うときの「シャーシャーラー(大屋台夜囃子)」、御旅所から各町内へ帰るときの「十日えびす」「シャンシャンギリス」、小屋台が地域の境に到着したときの「チョンキナ」の6曲を順に披露する。

油谷聡太 橋本将 今西泰雅 小林太輝 安田雄貴 山本右京 脇航平 小川泰世 堤真衣 堤真穂 長谷明義 伊藤康恵 白子ミナミ 竹川陽子 中村正之 中村直子 竹川裕久 林田昭伸 濱博之



## 海外団体 ◆ インド 「南インドの伝統舞踊～モヒニヤットム」

ナタナカイシキ舞踊研究所

「モヒニヤットム」は、インド南部のケーララ州で古くはヒンドゥー教の巫女によって担われてきた舞踊である。「モヒニ」は魅力的な女性、「アットム」は優雅な踊りを意味し、インド七大舞踊の一つに数えられている。伝統的には1人で踊られることが多く、女性らしい優雅でやわらかな動きが特徴で、神へ捧げる愛を全身でゆったりと表現している。目と顔の表情を自在に使い、「ムドラー」と呼ばれるハンドジェスチャーで、多彩な感情を手話のように丁寧に語りかける独特の表現。足は大地を踏み、風にゆれる椰子の樹や稲穂、おだやかな川の流れ、海の波のうねりを模した動きなど、ケーララの豊かな自然に根ざした踊りも多い。戦後、社会変化とともに伝統芸能が衰退するなか、ケーララの女性の伝統舞踊、芸能の研究と復興、教育の機関として、1979年にニルマラパニカル女史はナタナカイシキ舞踊研究所を設立。後進の指導をはじめ、失われた技法や演目を再構成し、精力的に活動をおこなっている。今回の演目「ポリ」は、ケーララ州の山地に住むクラヴァ民族の女性たちによる母なる女神「クラティ」への祈りの踊りで、全ての人々の女神に対する賛美と祝福を授かりますようにと祈願する。

ウマーデーヴィ・アヌマンガラム サンドラ・ビシャロディ スタルマ・エンブランディリ グル・ニルマラパニカル  
斎藤朋 高橋例子 入野智江ターラ 岡埜桂子

## 九州・沖縄ブロック ◆ 宮崎県宮崎市

### 「青島白太鼓踊り」 青島白太鼓踊り保存会

「青島白太鼓踊り」は、豊臣秀吉が朝鮮半島に出兵した際に、飢餓伊東藩の藩士が敵を威嚇し、味方の士気を鼓舞するために踊ったと伝えられている。今から300年前には藩主から年少者の盆踊りが許され、以後毎年8月14日15日報恩寺の庭で祖霊の供養と悪魔払いとして踊られるようになったという。現在は、8月14日15日には青島公園墓地と、旧暦6月の初丑の日に大將軍神社の祭礼で踊られている。県内には青島以外に30以上の白太鼓保存会が存在するが、踊り手が鬼面を着けるのは青島のみである。踊り手は一尺余りの太鼓を腹に抱えた太鼓組を中心に、鬼面を着けた面組を取り囲むように円陣をつくり、歌や鉦、笛に合わせて踊る。太鼓組は左右にバチを持ち、面組は右手にしゃくし、左手に懐剣を意味するすりこぎを持ち、勇壮に踊る。後継者不足の中で郷土文化の継承のため小中学生への教育の一環として学校の積極的な授業の取組みで練習を重ねている。

坂口なぎさ 北吉翼 岩切昌宣 山内響 石丸智也 新宮幸治郎 杉田亮佑 黒木基靖  
谷大輝 岩切美穂 上原星 小堤末吉 持原俊夫 黒木元昭 弓削文人 持原忠七  
浜田保一 甲川登茂子



## 中国・四国ブロック ◆ 岡山県高梁市

### 「備中神楽」 成羽備中神楽育成会



「備中神楽」は、この地方の古い原始信仰で、暴風雨や悪疫などをもたらす荒神の心を和らげようとして行われた荒神祭の鎮魂行事の中で民俗芸能として生まれ、信仰と芸能、古いものと新しいものが混然一体となって伝承され続けている間に、秋祭りや正月などに欠くことのできない郷土芸能として、備中地方一円に広まっているものである。荒神神楽の中に特に神代神楽三曲があり、これは、江戸時代、文化文政の頃、成羽の国学者で神官だった「西林国橋」が古事記、日本書紀の神話の中より「岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」の三編を選び劇化し、変化に富んだ芸能性の高い民俗芸能に仕上げたものである。成羽備中神楽育成会は、備中神楽の保存、伝承、後継者の育成のために20年前に結成され、現在3歳から高校生まで約28名の子どもたちが、成羽町の神楽館で週1回の練習に励んでいる。今回は素戔鳴尊の「大蛇退治」を披露する。

吉田佳司 住田将生 小田大輝 月本惇 山根愛翔 川上翼 信原直哉 大塚芳伸  
佐藤昌弘 川上哲

## ❀ 全国こども民俗芸能大会出演団体 ❀

### 平成11年度(1999年)第1回こども民俗芸能大会『キッズ21～お祭りわっしょい』

「貫井囃子」	貫井囃子保存会	(東京都小金井市)
「獅子舞」	田名八幡宮獅子舞保存会	(神奈川県相模原市)
「エイサー・獅子舞」	琉球國祭り太鼓東京支部	(東京都杉並区)
「高円寺阿波踊り」	東京飛鳥連	(東京都杉並区)
「チャッキラコ」	ちゃっきらこ保存会	(神奈川県三浦市)

### 平成12年度(2000年)第2回こども民俗芸能大会『こどもたちの舞い・踊り』

「雅楽」	瑞穂雅楽会	(東京都葛飾区)
「阿波踊り」	経堂むらさき連	(東京都世田谷区)
「獅子舞」	大島諏訪明神獅子舞保存会	(神奈川県相模原市)
「和太鼓」	相模龍王太鼓保存会少年部	(神奈川県相模原市)

### 平成13年度(2001年)第3回こども民俗芸能大会

『こどもからこどもへ～伝え継がれた神楽と踊り』

「鮎屋踊り」	長井町鮎屋踊り保存会	(神奈川県横須賀市)
「本海番楽」	猿倉番楽保存会	(秋田県鳥海町)
「石見神代神楽」	上府子供神楽団	(島根県浜田市)
「荒馬踊り」	世田谷リズムの会	(東京都世田谷区)

### 平成14年度(2002年)第4回全国こども民俗芸能大会

『北から南から選抜された芸能大集合～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「下北の能舞」	白糠子ども会	(青森県東通村)
関東ブロック	「猿っ子踊り」	賀茂村宇久須柴区子供会	(静岡県賀茂村)
東京都	「稲付の餅搗唄」	稲付千本杵餅練唄・餅搗唄保存会	(東京都北区)
近畿・東海・北陸ブロック	「いさな太鼓」	太地町民芸保存会こども民芸保存部会	(和歌山県太地町)
中国・四国ブロック	「山川町神代御宝踊り」	神代御宝踊り保存会	(徳島県山川町)
九州・沖縄ブロック	「荷川取のクイチャー」	荷川取子ども会	(沖縄県平良市)

### 平成15年度(2003年)第5回全国こども民俗芸能大会

『未来へ受け継がれるふるさとの芸能大集合～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「廿一田植踊」	廿一田植踊保存会	(宮城県気仙沼市)
関東ブロック	「今田人形」	竜峡中学校今田人形座	(長野県飯田市)
東京都	「仲若囃子」	仲若囃子連	(東京都練馬区)
近畿・東海・北陸ブロック	「天神祭りの獅子舞」	本郷子供会	(岐阜県上宝村)
中国・四国ブロック	「伊予万歳」	伊予万歳双葉会	(愛媛県北条市)
九州・沖縄ブロック	「庄内神楽」	庄内子供神楽愛好会	(大分県庄内町)

### 平成16年度(2004年)第6回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「根反鹿踊り」	一戸南小学校根反鹿踊り伝承クラブ	(岩手県一戸町)
関東ブロック	「鷲流狂言」	佐渡市立真野中学校	(新潟県佐渡市)
東京都	「江戸祭り囃子」	神田流神明囃子保存会	(東京都板橋区)
近畿・東海・北陸ブロック	「塩津の鱒踊り」	塩津いな踊り保存会	(和歌山県下津町)
中国・四国ブロック	「石見神楽」	有福子供神楽社中	(島根県浜田市)
九州・沖縄ブロック	「石垣川平の結願祭」	川平伝統芸能保存会	(沖縄県石垣市)

# ❀ 全国こども民俗芸能大会出演団体 ❀

## 平成17年度(2005年)第7回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「黒川能」	櫛引町立櫛引東小学校	(山形県櫛引町)
関東ブロック	「与板民謡」	与板民謡たちばな会	(新潟県与板町)
	「廣大寺」	栃尾市立中野俣小学校	(新潟県栃尾市)
近畿・東海・北陸ブロック	「唐人踊」	子ども唐人・唐人踊を継ぐ会	(三重県津市)
中国・四国ブロック	「有田神楽」	有田こども神楽団	(広島県北広島町)
	「釜ヶ原神楽」	北門こども神楽	(山口県美和町)
九州・沖縄ブロック	「滑石竜踊」	滑石竜踊保存会子供竜踊	(長崎県長崎市)

## 平成18年度(2006年)第8回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「鶏舞」	沢田鶏舞保存会	(青森県十和田市)
関東ブロック	「利根地固め唄」	利根地固め唄保存会	(茨城県利根町)
東京都	「八王子車人形」	八王子市立由井中学校三味線部	(東京都八王子市)
近畿・東海・北陸ブロック	「御殿万歳」	山添御殿万歳こども教室	(奈良県山添村)
中国・四国ブロック	「麒麟獅子舞・さいどりさし」	中ノ郷伝統芸能くらぶ	(鳥取県鳥取市)
	「石見大元神楽」	市木楯尾子ども神楽団	(島根県邑南町)
九州・沖縄ブロック	「伊倉仁〇加」	伊倉仁〇加保存会	(熊本県玉名市)
在日の海外団体	「インドネシアの芸能」	東京インドネシア共和国学校	(東京都目黒区)

## 平成19年度(2007年)第9回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～親子でたのしむこどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「松前神楽」	神恵内松前神楽保存会	(北海道神恵内村)
	「鹿子躍・鶏舞」	一関市立舞川小学校	(岩手県一関市)
関東ブロック	「滝沢の放歌踊り」	浜松市立都田中学校	(静岡県浜松市)
東京都	「江戸の祭り囃子」	戸塚囃子保存会	(東京都新宿区)
近畿・東海・北陸ブロック	「御殿万歳」	西尾市立西野町小学校御殿万歳クラブ	(愛知県西尾市)
中国・四国ブロック	「御調神楽」	尾道市立上川辺小学校子ども神楽教室	(広島県尾道市)
九州・沖縄ブロック	「島唄・六調」	天城子宝六調バンド	(鹿児島県天城町)
在日の海外団体	「インドの伝統芸能」	コンテンポラリー・ナティヤム・カンパニー	(東京都練馬区)

## 平成20年度(2008年)第10回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック	「南部駒踊」	高館駒踊保存会	(青森県八戸市)
関東ブロック	「いなりっこ」	三浦いなりっこ保存会	(神奈川県三浦市)
	「小田原囃子」	小田原囃子多古保存会	(神奈川県小田原市)
近畿・東海・北陸ブロック	「氷見網起し木遣り」	氷見網起し木遣り保存会子供会	(富山県氷見市)
	「曾爾の獅子舞」	曾爾村立曾爾中学校	(奈良県曾爾村)
中国・四国ブロック	「石見神楽」	高津神楽社中子ども神楽部	(島根県益田市)
九州・沖縄ブロック	「沖端水天宮舟舞台囃子」	舟舞台囃子保存会	(福岡県柳川市)
在日の海外団体	「ペルーの民族舞踊」	日本・ペルー文化実行委員会	(滋賀県大津市)

## 平成21年度(2009年)第11回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック	「秋保の田植踊」	湯元の田植踊保存会	(宮城県仙台市)
関東ブロック	「徳山の盆踊」	川根本町徳山古典芸能保存会	(静岡県川根本町)
近畿・東海・北陸ブロック	「京都の六斎念仏」	京都市立光徳小学校六斎クラブ	(京都府京都市)
中国・四国ブロック	「淀江さんこ節」	宇田川青少年育成会郷土芸能部	(鳥取県米子市)
	「古三津の虎舞」	古三津子ども虎舞保存会	(愛媛県松山市)
九州・沖縄ブロック	「御嶽神楽」	清川子ども神楽保存会	(大分県豊後大野市)
在日の海外団体	「韓国の伝統芸能」	金美福舞踊研究所	(東京都荒川区)
海外からの招聘団体	「スリランカの伝統舞踊」	キャンディ・トラディショナル・ダンス・グループ	(スリランカ民主社会主義共和国)

海外団体 ◆ インド  
「南インドの伝統舞踊～モヒニヤッタム」  
ナタナカインキ舞踊研究所



近畿・東海・北陸ブロック ◆ 三重県松阪市  
「射和祇園祭囃子」  
射和祇園祭囃子保存会



# 第12回 全国こども民俗芸能大会



中国・四国ブロック ◆ 岡山県高梁市  
「備中神楽」  
成羽備中神楽育成会

九州・沖縄ブロック ◆ 宮崎県宮崎市  
「青島白太鼓踊り」  
青島白太鼓踊り保存会

## 東京・明治神宮外苑

全会議室(18室)ブロードバンド対応!



- 宿泊 81室(和40・洋29・和洋12)400名
- 会議・研修 大ホール(1,360席)、他18室
- 婚礼・宴会



洋室



和洋室



A-ONE会議室

日本青年館  
ホテル

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7-1  
TEL:03-3401-0101 FAX:03-3404-0611  
<http://www.nippon-seinenkan.or.jp>  
E-mail:hotel@nippon-seinenkan.or.jp

## 富士山麓・山中湖畔1,000mの別天地



- 宿泊 61室(和29・洋30・和洋2)330名
- 会議・研修 10室(18~150名)
- その他 大浴場、中国菜館「湖林」、体育館、  
野外炊飯場、駐車場完備



新館洋室



大浴室



ホール



山中湖畔荘  
ホテル清溪

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘  
TEL:0555-62-0020 FAX:0555-62-4460  
<http://www.nippon-seinenkan.or.jp>  
E-mail:seikei@nippon-seinenkan.or.jp

第12回

全国こども

民俗芸能大会

民俗芸能で広がる子どもの世界

スタッフ

構成・演出 (社)全日本郷土芸能協会

照明 齊藤正雄

音響 中村基

舞台監督 笹生昭 賢持真一

舞台進行 加計涼子 鈴木知実 井上和彦

宣伝美術 松岡拓也(江戸クリエート)(株)

記録写真 松井聡

記録映像 (株)ポール

制作 (社)全日本郷土芸能協会

森下春夫 小岩秀太郎 西田昌代



社団法人 全日本郷土芸能協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂 6-7-14-102  
TEL. 03-5545-3413 E-mail. info@jfpaa.jp <http://www.jfpaa.jp/>